

# 感染症対策の「基本」で、経営への影響を抑える

冬場はインフルエンザなどの感染症の患者が増加する。感染症によって多くの利用者が入院などになった場合、経済的損失だけでなく、信用失墜など経営にマイナスの影響を及ぼす。

本稿では、研修や早期対応といった基本の感染症対策によって、経営への影響を最小限に抑える方法を紹介する。



株式会社医療経営研究所  
介護経営コンサルタント

関田 典義

## 感染症予防対策の重要性と感染症発生による経営への影響

経営を安定させるためには、リスクマネジメントの一環である感染症予防対策は欠かせない重要なものである。

感染リスクをゼロにすることは難しいが、一次～四次予防のサイクルを適切に回すことで、損害の程

度と発生する確率を抑えリスクを急速に低減させることができる。研修などに使用していただける詳細な資料を後半のページにまとめたので、参考にしていただきたい。

### 一次予防～四次予防の考え方

一次予防	感染症を発生させないための平常時の取り組み 例：感染源の排除や感染経路の遮断、健康状態の管理、指針や感染防止対策マニュアル（実用的に編集）整備、職員研修、手洗い励行、訪問者への対応など
二次予防	感染者の早期発見・早期対応 例：健康状態の変化の観察や記録・申し送りによる情報共有など
三次予防	感染経路の遮断など被害の拡大防止 例：嘔吐物の適切な処理、隔離など
四次予防	日常業務への早期復旧活動 例：終息後の発生原因検証、利用者・職員のメンタルケア、ケースによってはシフトの調整、家族・行政対応など

## 感染症対策に関する意識の啓発

感染症対策は、介護の質を担保する上で極めて重要になるため、すべての職員が感染のリスクと正しい知識を持つことが必要である。

例えば、N事業所では図1のような実体験の場を設けスタッフの意識啓発、判断力・対応力を向上させている。手順としては、事例の共有→予防対策カードを配布→必要と思う予防対策カードを選択→発表

というものになっている。

説明しながら実際の処理手順などを確認し、不十分な点があれば感染管理責任者が補足説明をする。ポイントは、吊るし上げにならないような雰囲気をつくり行うこと。このような取り組みを継続することで、スタッフの感染症対策への理解度がより深まる。

図1 N事業所の研修例

<p>レクリエーション中、椅子に座り円になって、歌をうたっている時に嘔吐。レクリエーションに参加していたのは10人。スタッフは円の外にいました。あなたはこれから吐物処理を行います。</p> <p><b>【必要な予防策カードを選択】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 手袋</li> <li>● エプロン・ガウン</li> <li>● サージカルマスク</li> <li>● 手指衛生</li> <li>● 換気</li> </ul>	<p>昨日から発熱、咳、筋肉痛、咽頭痛、鼻水のある入所者がいます。あなたはこれから体温・血圧測定などの健康チェックをします。</p> <p><b>【必要な予防策カードを選択】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サージカルマスク</li> <li>● 手洗い</li> <li>● 換気</li> </ul>	<p>2週間前から咳の続いている入所者がいます。受診し胸部レントゲン検査の結果、結核の疑いがあると言われ、診断が出るまで施設で待機となりました。あなたはこれから着替えの介助を行います。</p> <p><b>【必要な予防策カードを選択】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● N95 マスク</li> <li>● 換気</li> </ul>
--	---	---

## まとめ

感染症対策においては、基本が重要になる。感染症が蔓延した施設でその原因を検証すると、一人の職員が「一行為一手洗い」の原則を実施しないことにより感染が拡大しているケースもある。また、普段は実施していても、たまたま一回だけ手洗いをしなかった為に、感染が拡大するケースもある。一人ひとりが決められた感染対策における行為を確実に実施することが、感染防止を行う上で極めて重要になる。感染源は何なのか、どのような形で感染していくのか、熱に弱いのか、乾燥に弱いのか。感染源に応じた対応をしなければ、過剰に反応してしまったり、対応に不足が生じてしまう。目に見えないので不安はあるが、正しい知識を持ち、冷静にチームで対応することが求められる。

また、感染源と感染症対策について、全スタッフが理解することが重要だ。「私は知っています」ではなく実践できなければ意味がない。そのためには、日ごろの訓練を習慣化することが必要である。一人でも対応できないスタッフがいれば、感染が拡大する恐れがある。すべてのスタッフが実践・継続できることを目指すことが求められる。

ABCDの法則というものがある。A当たり前のことを、Bばかにせず、CちゃんとDできること。一次～四次予防までスタッフ全員が共有・実践することで、リスクマネジメントが行われ感染症のリスクを低減することが可能となる。この法則を念頭に、下図の仕組み・体制を構築していただければと思う。

一次～四次予防のサイクル

